

津島市タウンミーティング（藤浪中学校地域協働本部）会議録

日程 令和5年6月28日（水）

午後6時～7時31分

会場 藤浪中学校視聴覚室

1 意見交換（要旨）

テーマ「2大プロジェクト！『まちづくり再生と子育て支援』」

津島市で進めているまちづくり再生・子育て支援施策の紹介・進捗状況について市長より説明し、参加者と意見交換を行った。

（1）小中学校の空き教室などの使用について【事前質問】

質問

小中学校の空き教室などを、コミュニティセンター・公民館のように使用し、コミュニティセンター本部・地域交流・活動の場とする可能性についてどう思われるか？

市職員

平成31年度に津島市教育委員会で策定した「津島市学校施設長寿命化計画」の中に、学校は児童・生徒の学習の場であることを第一としながら、地域と連携して地域活動及び交流活動を実施し、子どもたちが地域社会の中で豊かに健やかに過ごせるようコミュニティ活動の拠点として、学校利用に役立てるよう示されている。

教育のあり方で、従来は40人学級で1クラスの人数編成であったが、令和3年度に文部科学省の通達により35人学級の導入が段階的に行われている。現在、愛知県では小学校5年生までが35人学級となっており、このあと6年生まで続いていく。中学校については、まだ示されていない。今後少人数学級への移行が予定されている。

1人1人に対応した個別最適な学びが昨今言われており、多様化した教育が求められている。子どもの数は減少しているが、どの学校も特別支援学級に所属する子どもの数は増えており、その学級数も増加している。また、日本語教育や言葉の発達支援など取り出し教育も求められている。このようにたくさんの教室の必要性が求められている中、3つの小中学校（北小、東小、藤浪中）の全ての教室に役割がある。

学校の空き教室などをコミュニティセンターや公民館として使用していくことについては、様々な課題があると考えている。しかしながら、地域の子は地域で育てる、地域に愛着をもった子どもを育てる環境づくりを行っていくことは重要と考えている。

津島市は、現在子育て支援に力を入れているが、今後の人口動向を見ると、しばらく子どもの減少傾向が続く。今後予備教室が出ることも予想される。地域のコミュニティ活動拠点として学校へ集約化していくことについては、学校と相談しながら、公共施設の有効活用という観点から、教育委員会として検討していきたい。

意見

地域の老人やサークル活動を行う方が学校に集まって、子どもたちが授業を受けている間、学校をコミュニティセンターとして使用することについて、市長はどのように考えているのか。

市長

地域の子どもたちを地域で見守ることが、理想で一番いい形である。しかしながら、学校での安全面を考えると、なかなか思うようにいかないのが現状である。地域が支え合って気軽に入れる学校になると良いと考える。監視の目も働く。良い点ばかりではないため、学校側も気を遣ってフルオープンにするのはなかなか難しいのではないか。

意見

神守こどもの家は、子どもたちが授業を受けている間、老人クラブなどが利用することはできるのか。

教育長

子どもたちが、神守こどもの家にやって来る前に、準備で早くから使用しているため、一般の方は使用できない。

意見

なかなか難しいと思うが、乳幼児サロンなどに使用できると良い。

市長

小学生が対象で、なるべく小学校の敷地内が望ましいと考え、西小、北小、神守小は作った。

教育長

学校の中で、子どもを預かり、さらに勉強できるような施設として、子どもの家を作ってもらった。学校生活での継続という形で時間が流れていく、子どもたちの安全面でも非常に素晴らしい施設だと考えている。時代の流れで、地域の方を学校に入れる事例をいくつか見ているが、学校の中に地域の人を入れる場合には、それなりの準備が必要である。例えば老人の方を学校に入れる場合、今の状態のままでは危なく、福祉施設のような感じにしなければいけない。それぞれの学校では、学校としての役割がある。長いスパンで考える必要がある。学校の中に設置する適当な施設とそうでない施設があるが、子育てや学童の施設については学校と馴染む施設だと思う。これからコミュニティ・スクール協議会の中で継続的に話し合いながら決めていければと考える。そういった面で、コミュニティ・スクールが非常に大切な役割を果たしてくれると期待している。

(2) 北小学校の防犯カメラの設置について

意見

北小学校区コミュニティ推進協議会では、毎年6月9日をロックの日と定めて、チラシを全戸配布している。この日には、警察署の方が北小学校区コミュニティに見え

て、役員と一緒に北小学校区内を歩き、ここは防犯カメラが設置してあるからいい、ここは死角になっているから危ないという話を警察の方に聞きながら回った。その時に、警察の方から、北小学校は危ないと言われた。南門から人が自由に出入りできる。カメラやチャイムがないから、誰が来たか分からない。私も北小学校によく出入りするが、確かに南門から入ったら、職員室の前を通らず、教室に行けてしまう。過去にも様々な事件が起きており、セキュリティの面が非常に心配である。北小学校も防犯カメラの設置を検討してほしい。

市職員

市内の4中学校については、防犯カメラが設置されている。東小学校は、2年前に交通安全協会の寄附により防犯カメラが設置されている。7小学校については、地域BWAの中の見守り事業の一環で、防犯カメラを設置することを検討しているところ。各小学校にいくつずつ防犯カメラが設置されるかは現在検討段階で申し上げることができない。地域BWA事業は、総務デジタル課が所管となり、今年度中に事業を完了することを予定している。その事業の中で、防犯カメラの設置について検討していく。

(3) 通わせたいと思える学校づくりについて

意見

半年か1年前に、稲沢市長がお店に来た時に、瀬戸市へ視察に行ったという話があった。瀬戸市の小中学校が合併して、新しい学校を設立したという話が印象的であった。学校の名前は覚えていないが、学校内には、子どもたちが集まって円形テーブルで楽しく学べる施設もある。この学校に通わせるために、瀬戸市内の人や市外、県外の人とその学校の校区に引っ越して来るため、人口が増えてきている。人を通わせたいと思える学校づくりを推奨してほしいと思っているが、市としてはどのように考えているのか。

教育長

おそらく瀬戸SOLAN小学校のことで、初めて民間企業が作った私立学校である。グラウンド全面に人工芝が敷かれている。年間授業料が、1人約200万円かかり、全国で一番高い授業料となっている。オールイングリッシュ、オールプログラミングが特徴で、全国から金持ちが移住してくる。津島市も、小中学生の早い段階からプログラミングに親しんでいる。プログラミング教育に予算をかけている自治体はまだ少ないため、その点をしっかりとPRし、「子育てするなら、学校に通わせるならつしま」を目指していきたい。また、領事館交流プロジェクトも同様で、国際感覚を身に付けるには、早い段階から国際感覚を養うことが必要である。早くからネイティブに触れて、外国人に会う機会を作ることは、津島のまちを愛し、外国に興味を持ってもらうことが狙いである。今後、私立や県立の中学校が設置されるため、公立中学校も生き残りをかけて頑張ってもらえるよう、校長先生にお願いしていく。

意見

昨日、愛西市の清林館高校の中学校の説明会があり、清林館で役員をやっている人とお話する機会があった。中学校の説明を開催したら、非常に大盛況だったとのこと。

市長

教育は大事。これからはデジタルの時代。キーワードは、楽しくて役に立つ。楽しさが先に来ないと、やりたい気持ちにはならない。1つのスキルを自分から進んで自然に身に付けることが大切。

もう1つは国際人を育てること。本日、在名古屋フィリピン共和国総領事館が、わざわざ津島市役所を訪れてくれた。すごいことだと思っている。また、先日は在名古屋ペルー共和国総領事館を訪れ、尾張津島天王祭をPRした。本年がペルー外交樹立150周年記念ということで、時差はあるが、ぜひ子どもたちとの交流ができればというお話があった。津島高校も国際バカロレア教育の導入を目指している。この地域に国際教育が進んでいけば、まち自体が変わってくると思う。

(4) 教育現場における人の配置について

意見

市長の手腕で、津島市の財務体質が大きく改善し、全国的に珍しい取り組みをしていただいていること、ありがたく思う。ロボホンのプログラミング教育については、非常に先進的で意義があることだと感じている。領事館交流プロジェクトについても、市内8小学校が領事館とタイアップして何かができることはすごいことだと感じている。学校現場としては、何とかこのような取り組みの成果をあげていきたいと考えている。反面、学校現場は忙しく、先生方も子どもたちの教育のために必死に力を尽くしている。教育の多忙化と言われている中で、人的に苦しい。ICT支援員の方に定期的に学校を回っていただいたりしてありがたいと思うが、現実職員室は、午前中事務員さんだけでほぼ空っぽの状態。市長の手腕で、何億、何十億のお金が生まれるのであれば、人の配置に予算を付けることはできないのか。例えば、各学校に領事館交流プロジェクトを進めるための人員、あるいはロボホンのプログラミング教育を進めるための専門的なスタッフ。人の配置をしてもらえることが一番ありがたい。多忙化解消のためには、仕事を減らすか人を増やすかの2択。市長の手腕でやっていただければ、きっと子どもたち1人1人に質の高い行き届いた教育ができると個人的には思っている。市長がスタートさせてくれたプロジェクトを、より実りのあるものにしていくために人を配置してくれるとありがたい。先生1人1人の負担も減るし、子どもたちにもより良い教育を行うことができ、子どもたちの成長や幸せにつながっていくと思っている。実現はかなり先になるかもしれないが、もっともっと多くの人々が学校で子どもたちの成長や幸せのために力を発揮できるよう、教育環境が整うといいなと願っている。

市長

教育は、もっとも大事な分野だと考えている。選択と集中という話が出る。目指すは、津島市の価値を上げること。価値を上げるために、ある程度選択と集中が必要。今まで津島市は財政的に厳しかった。そのことをしっかりと受け止めて、財務体質を改善し、様々な事業を実施しながら、投資も行い、財政調整基金を積み立てることができた。津島市の価値を高め、注目を集めるために、市として「子育て支援トータルプラン」を打ち出し、日本一の教育を目指すことを決めた。この先10年間、津島市はつぶれない。10年の間に注目を集めれば、津島市への移住者も増え、人口が戻るかもしれない。日本全体の人口は、2050年には8,600万人に減少する見込みで、それを食い止めることはできない。人口減少が進んでいく中、人々は豊かな生活ができるよう、自治体に何を求めるか。つしま成長戦略を打ち出して、1つずつ事業を行っているところ。教育は大事な視点。できる限りのところで、子育て支援を一番に掲げて、移住・定住に結びつけていきたい。

意見

一般の人は目に見える成果を求める。例えば学校施設に「プールがある」、「クーラーが付いていて、涼しい」など。そういったことが学校のイメージにつながる。津島市をPRするために、具体的に目に見える成果を出してほしい。

以上。